



## ユーザの移行

- [ユーザ移行の概要 \(1 ページ\)](#)
- [移行の要件 \(1 ページ\)](#)
- [ユーザ移行タスク フロー \(1 ページ\)](#)

### ユーザ移行の概要

ここでは、IM and Presence Service クラスタ間でユーザを移行する方法について説明します。

### 移行の要件

- 現在のクラスタおよび移動先クラスタの両方の完全バックアップを行います。詳細については、[バックアップ タスク フロー](#)を参照してください。
- 移行するユーザに現在の（移行前）ホーム クラスタ上の Cisco Unified Presence または Cisco Jabber のライセンスが供与されていることを確認します。これらのユーザーが移行元クラスタ以外のクラスタでライセンスされている場合は、移行作業を進める前に完全にライセンスを解除しておく必要があります。

### ユーザ移行タスク フロー

IM and Presence ユーザを新しいクラスタに移行するには、これらのタスクを完了します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	<a href="#">古いエントリを削除する (3 ページ)</a>	ユーザを移行する前に、すべての古い rosters、グループエントリ、および非プレゼンス契約レコードを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 2</b>	移動の必須サービスの起動 (5 ページ)	移行する前に、以下のサービスが実行されていることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco AXL Web Service</li> <li>• Cisco Sync Agent</li> <li>• Cisco Intercluster Sync Agent</li> </ul>
<b>Step 3</b>	クラスタ間同期エラーの確認 (4 ページ)	トラブルシューティングを実行し、Intercluster Sync Agent に問題がないことを確認します。
<b>Step 4</b>	移行の標準プレゼンスの設定 (4 ページ)	ユーザを移行する前に、以下の標準のプレゼンス設定を構成します。
<b>Step 5</b>	ユーザ連絡先リストのエクスポート (5 ページ)	この手順を実行して、移行中のユーザーの連絡先リストを現在のクラスタからエクスポートします。
<b>Step 6</b>	以下のいずれかのミニタスクフローを完了して、ユーザを新しいクラスタに移動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LDAP 経由でのユーザの移行 (6 ページ)</li> <li>• 新しいクラスタへのユーザの手動での移動 (8 ページ)</li> <li>• 一括管理経由のユーザ移行 (11 ページ)</li> </ul>	ユーザを新しいクラスタに移動します。LDAPを使用して、新しいクラスタにユーザをプロビジョニングすること、ユーザを手動で移動すること、あるいは一括管理を使用して、ユーザを新しいクラスタに移行することが可能です。
<b>Step 7</b>	ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート (16 ページ)	ユーザを新しいクラスタに移行したら、連絡先リストをインポートして、移行したユーザの連絡先データを復元します。
<b>Step 8</b>	元のクラスタでのユーザの更新 (17 ページ)	新しいクラスタですべてが正常に動作していることを確認するまで、古いクラスタからユーザーを削除しないでおくこともできます。一括管理のユーザの更新機能を使用するこの手順を使用して、古いクラスタから IM and Presence 機能を削除します。

## 古いエントリを削除する

ユーザを移行する前に、古い rosters、グループエントリ、および非プレゼンス連絡先レコードを削除します。これは、ユーザがプレゼンスを無効にしたパブリッシャ IM&P ノードで実行されます。



(注) 必要に応じて、2000のバッチでこれらの手順を繰り返します。CLI を介して大量の古いエントリを削除するのに時間がかかっている場合は、TAC ケースをオープンして、ルートアクセスが必要なこのセクションの最後にある古い名簿スクリプトを活用します。

### 手順

- Step 1** CLIセッションを開始します。CLIセッションを開始する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications ソリューションコマンドラインインターフェイスリファレンスガイド』の「CLIセッションの開始」の項を参照してください。
- Step 2** 古い名簿エントリを確認して削除します。これを行うには、次のクエリを実行します。
- 古い名簿のエントリがないかどうかを確認します。

```
run sql select count(*) from rosters where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)
```
  - 古い名簿のエントリを削除します。

```
run sql delete from rosters where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from rosters where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)))
```
- Step 3** 古いグループレコードを確認して削除します。これを行うには、次のクエリを実行します。
- 古いグループレコードがないかどうかを確認します。

```
run sql select count(*) from groups where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)
```
  - 古いグループレコードを削除します。

```
run sql delete from groups where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from groups where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)))
```
- Step 4** 古い非連絡先レコードを確認して(順番に)削除します。これを行うには、次のクエリを実行します。
- 古い非連絡先レコード(順番)を確認します。

```
run sql select count(*) from nonpresencecontacts where fkenduser in (select pkid from enduser where primarynodeid is null)
```
  - 古い非連絡先レコードを次の順序で削除します。

```
run sql delete from nonpresencecontacts where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from nonpresencecontacts where fkenduser in (select pkid from enduser where primarynodeid is null)))
```
  - ルートアクセス権がある場合は、次のクエリを使用します。

```
run sql delete from epascontactaddinfo where pkid in (select * from (select first 2000
pkid from epascontactaddinfo where pkid not in (select fkepascontactaddinfo from
nonpresencecontacts)))
```

## 移行の標準プレゼンスの設定

ユーザを移行する前に、以下のプレゼンス設定を構成します。

### 手順

- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > 設定 > 標準設定**を選択します。
- Step 2** **確認プロンプトなし**で、**ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする**1 チェックボックスをオンにします。
- Step 3** **連絡先リストの最大サイズ (ユーザ毎)** で、**制限なし** チェック ボックスをオンにします。
- Step 4** **ウォッチャの最大数 (ユーザ毎)** 設定では、**無制限** チェックボックスをオンにします。
- Step 5** [保存 (Save) ] をクリックします。

### 次のタスク

[クラスタ間同期エラーの確認 \(4 ページ\)](#)

## クラスタ間同期エラーの確認

移行する前に、クラスタ間の同期エラーが発生していないことを確認します。

### 手順

- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、**[診断 (Diagnostics) ] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter) ]** を選択します。
- Step 2** クラスタ間の同期エラーが発生していないことを確認します。エラーがある場合は、修正を行ってから続行します。

### 次のタスク

[移動の必須サービスの起動 \(5 ページ\)](#)

## 移動の必須サービスの起動

Cisco Unified IM and Presence Serviceability において、以下の移行の重要なサービスが実行されていることを確認します。

- Cisco AXL Web Service
- Cisco Sync Agent
- Cisco Intercluster Sync Agent

### 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified IM and Presence Serviceabilityから、**ツール > コントロールセンター - 機能サービス** を選択します。
  - Step 2** サーバドロップダウンから、使用する IM and Presence クラスタ ノードを選択し、**移動**をクリックします。
  - Step 3** データベースおよび管理サービスの下の **Cisco AXL Web Service** が起動していることを確認します。サービスが、実行中でない場合（デフォルト設定が実行中でない場合）、そのサービスを選択して、**起動**をクリックします。
  - Step 4** **[Tools (ツール)] > [Control Center - Network Services (コントロールセンターのネットワーク サービス)]** を選択します。
  - Step 5** サーバドロップダウンから、使用する IM and Presence クラスタ ノードを選択し、**移動**をクリックします。
  - Step 6** **IM and Presence Services**の下の**Cisco Sync Agent** および **Cisco クラスタ間 Sync Agent** サービスの両方が実行中であることを確認します。実行されていない場合は、**起動**させます。
- 

### 次のタスク

[ユーザ連絡先リストのエクスポート \(5 ページ\)](#)

## ユーザ連絡先リストのエクスポート

この手順を実行して、移行中のユーザーの連絡先リストを現在のクラスタからエクスポートします。

### 手順

- 
- Step 1** 現在のホーム クラスタから移行ユーザの連絡先リストをエクスポートします。
    - a) **Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、**一括管理 > 連絡先リスト > エクスポート** を選択します。
    - b) **クラスタ内のすべての未割当てユーザ** を選択して、**検索**をクリックします。

- c) 結果を確認し、必要に応じて **[AND/OR (および/また)]** フィルタを使用して検索結果をフィルタリングします。
- d) リストが完了したら、**次へ** をクリックします。
- e) エクスポートされた連絡先リスト データのファイル名を選択します。
- f) 任意でジョブの説明を更新します。
- g) **[今すぐ実行 (Run Now)]** をクリックするか、ジョブを後で実行するようにスケジュールします。

**Step 2** 連絡先リストのエクスポート ジョブのステータスをモニタします。

- a) **Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、**一括管理 > ジョブ スケジューラ** を選択します。
- b) **検索** をクリックして、すべての BAT ジョブをリストします。
- c) 連絡先リストのエクスポート ジョブを検索し、それが完了と報告された場合はジョブを選択します。
- d) **[CSV ファイル名 (CSV File Name)]** リンクを選択して、連絡先リストのエクスポート ファイルの内容を表示します。ファイル名にタイム スタンプが追加されます。
- e) **[Job Results (ジョブの結果)]** セクションから、アップロードされた内容の要約を表示するログ ファイルを選択します。ログ ファイルには、ジョブの開始時刻、終了時刻、および結果の概要が含まれます。

**Step 3** 後でユーザの移行が完了したときに使用できるように、連絡先リストのエクスポート ファイルをダウンロードし、保存します。

- a) **Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、**一括管理 > ファイルのアップロード/ダウンロード** を選択します。
- b) **[検索 (Find)]** をクリックします。
- c) 連絡先リストのエクスポート ファイルを選択し、**[選択項目のダウンロード (Download Selected)]** を選択します。
- d) 後の手順でアップロードできるように CSV ファイルをローカルに保存します。

---

### 次のタスク

以下のタスク フローのいずれかに移動して、新しいクラスタ内のユーザを割り当てます。

- [LDAP 経由でのユーザの移行 \(6 ページ\)](#)
- [新しいクラスタへのユーザの手動での移動 \(8 ページ\)](#)

## LDAP 経由でのユーザの移行

ユーザが LDAP ディレクトリと同期されていて、新しいクラスタに移行する場合は、以下のタスクを実行します。



- (注) LDAPディレクトリの設定を新しいクラスタに追加する必要があります。これには、すべてのサービスプロファイル、ユーザプロファイル、および機能グループテンプレートが含まれます。機能グループテンプレートの設定で、**Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする** チェックボックスがオンになっていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	<a href="#">外部 LDAP ディレクトリの更新 (7 ページ)</a>	クラスタ毎に別々の LDAP 構造を使用し、ユーザが自身のホーム クラスタにのみ同期される展開の場合は、外部 LDAP ディレクトリを更新する必要があります。
<b>Step 2</b>	<a href="#">新しいクラスタでの LDAP の設定 (8 ページ)</a>	Cisco Unified Communications Manager で LDAP が有効である場合は、新しいクラスタを更新された LDAP ディレクトリと同期させて、ユーザを新しいクラスタにインポートします。

## 次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

## 外部 LDAP ディレクトリの更新

クラスタ毎に別々の LDAP 構造を使用し、ユーザが自身のホーム クラスタにのみ同期される展開の場合は、外部 LDAP ディレクトリを更新する必要があります。



- (注) 展開でフラットな LDAP 構造を使用する場合、つまり、すべてのユーザがすべての Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence サービス クラスタに同期され、ユーザが 1 つのクラスタにのみライセンスされている場合は、ユーザを移動する必要はありません。



- (注) 移行元・移行先のクラスタで LDAP ディレクトリ同期の設定内容に応じて、外部 LDAP ディレクトリ内でユーザを移動すると、次回の同期が実行される際、それらのユーザが自動的に新しい IM and Presence サービス クラスタに移行される場合があります。

## 手順

---

- Step 1** 外部 LDAP ディレクトリ内のユーザを更新します。
- Step 2** ユーザの移動後、古い LDAP のクラスタから LDAP エントリを削除します。
- 

## 次のタスク

[新しいクラスタでの LDAP の設定 \(8 ページ\)](#)

# 新しいクラスタでの LDAP の設定

## 始める前に

新しいクラスタで LDAP ディレクトリをプロビジョニングします。LDAP ディレクトリ同期にユニバーサル回線テンプレート、デバイステンプレート、および機能グループテンプレートが含まれている場合は、新しいクラスタでこれらのテンプレートを設定する必要があります。機能グループテンプレートで、以下のオプションがオンになっていることを確認します。

- Home Cluster
- Unified CM IM and Presence のユーザの有効化

LDAP ディレクトリ同期の設定方法については、*Cisco Unified Communications Manager* システム設定ガイドの「エンドユーザの構成」の部分を参照してください。

## 手順

---

- Step 1** Cisco Unified CM の管理で、[System (システム)] > [LDAP (LDAP)] > [LDAP Directory (LDAP ディレクトリ)] を選択します。
- Step 2** 検索 をクリックして、設定した LDAP ディレクトリを選択します。
- Step 3** [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] をクリックします。
- 

## 次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

# 新しいクラスタへのユーザの手動での移動

ユーザを新しいクラスタに手動で移動するには、以下のタスクを実行します。





- (注) ユーザ数が多い場合は、Cisco Unified Communications Manager の一括管理ツールを使用して、csv ファイル経由で多数のユーザを更新します。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	<a href="#">ユーザの IM and Presence の手動での無効化 (9 ページ)</a>	現在のホーム クラスタで IM and Presence Service と Cisco Jabber へ移行するユーザを無効にします。
<b>Step 2</b>	<a href="#">ユーザの手動インポート (10 ページ)</a>	新しいクラスタに LDAP 同期が設定されていない場合は、ユーザを新しい Cisco Unified Communications Manager クラスタに手動でプロビジョニングします。
<b>Step 3</b>	<a href="#">新しいクラスタの IM and Presence サービスのユーザの有効化 (10 ページ)</a>	新しいホーム クラスタでユーザが同期されている場合、または手動でプロビジョニングされている場合は、手動で IM and Presence サービスおよび Cisco Jabber のユーザを有効にする必要があります。

#### 次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

## ユーザの IM and Presence の手動での無効化

次の手順では、現在のホーム クラスタの IM and Presence Service および Cisco Jabber の移行ユーザを無効にする方法について説明します。



- (注) 一度に移行するユーザ数が多い場合は、Cisco Unified Communications Manager の一括管理ツールを使用することを推奨します。詳細は、*Cisco Unified Communications Manager* 一括管理ガイドを参照してください。

#### 始める前に

[ユーザ連絡先リストのエクスポート \(5 ページ\)](#)

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM 管理で、> ユーザ管理 > エンド ユーザを選択します。
  - Step 2** フィルタを使用して、IM and Presence Service を無効にするユーザを検索します。
  - Step 3** [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] 画面で、[Unified CM IM and Presence にユーザを有効にします (Enable User for Unified CM IM and Presence)] チェックボックスをオフにします。
  - Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## 次のタスク

[ユーザの手動インポート \(10 ページ\)](#)

## ユーザの手動インポート

新しいクラスタに LDAP 同期が設定されていない場合は、ユーザを新しい Cisco Unified Communications Manager クラスタに手動でインポートします。

詳細については、「[ユーザ設定値の設定](#)」を参照してください。

## 次のタスク

[新しいクラスタの IM and Presence サービスのユーザの有効化 \(10 ページ\)](#)

## 新しいクラスタの IM and Presence サービスのユーザの有効化

新しいホームクラスタでユーザが同期されている場合、または手動でプロビジョニングされている場合は、手動で IM and Presence サービスおよび Cisco Jabber のユーザを有効にする必要があります。

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM 管理で、ユーザ管理 > エンド ユーザを選択します。
  - Step 2** フィルタを使用して、IM and Presence サービスを有効にするユーザを検索します。
  - Step 3** [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] 画面で、[Unified CM IM およびプレゼンスにユーザを有効にします (Enable User for Unified CM IM and Presence)] をオンにします。
  - Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
  - Step 5** 電話機および CSF の Cisco Unified Communications Manager のユーザをプロビジョニングします。詳細については、『*Upgrade Guide for the Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
-

## 次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

# 一括管理経由のユーザ移行

一括管理ツールを使用して、ユーザを新しいクラスタに移動します（たとえば、クラスタ 1 からクラスタ 2 への移行）。

## 始める前に

Cisco 一括プロビジョニング サービスが、両方のクラスタで実行されている必要があります。



(注) IM and Presence クラスタ内の送信元から宛先へ移動するユーザの数が100未満の場合は、Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始または停止しないでください。

任意の送信元/宛先クラスタから 100~1000 ユーザを移動する場合は、ソースクラスタと宛先クラスタの両方で Intercluster Sync Agent サービスを停止して、次の手順を実行します。

移動するユーザの数が1000を超えている場合、たとえば、16 k のユーザを移動する必要がある場合は、次の手順に従って 8 k のユーザを最初に移動し、ユーザを 1 k のユーザのチャンクに移動しながら Intercluster Sync Agent サービスを停止します。後で、1 k のユーザのチャンクでバランスが取れたシリアルシーケンスで次の8K を移動します。

ユーザがソースから移動されている IM and Presence クラスタで、次のようにします。

**ステップ 1** IM and Presence パブリッシャのプレゼンス冗長グループ (PRG) ペアがクラスタ間同期エージェントサービスを停止する、関連付けられたサブスクリバノード上。

**ステップ 2** パブリッシャ IM and Presence プレゼンス冗長グループペアのクラスタ間同期エージェントサービスを停止するパブリッシャノード上。

ユーザが接続先から移動されている IM and Presence クラスタで、次のようにします。

**ステップ 3** パブリッシャプレゼンス冗長グループペアのクラスタ間同期エージェントサービスを停止するセカンダリノード上。

**ステップ 4** パブリッシャプレゼンス冗長グループペアのクラスタ間同期エージェントサービスを停止するパブリッシャノード上。



(注) クラスタ間同期エージェントサービスを停止する必要がある他のクラスタノードはありません。

**ステップ 5** Perform 一括管理によるユーザの移行に記載されている手順を実行します。

**ステップ 6** IM and Presence パブリッシャおよびサブスクリバノードのクラスタ間同期エージェントサービスを、宛先クラスタとソースクラスタの両方で開始します。

ステップ7他のすべてのクラスタが宛先クラスタとの同期を完了するまでに最大30分かかることがあります。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>Step 1</b>	CSV ファイルへのユーザ エクスポート (12 ページ)	移行元のクラスタ (クラスタ1) で、移行するユーザを CSV ファイルにエクスポートします。
<b>Step 2</b>	CSV エクスポート ファイルのダウンロード (13 ページ)	CSV エクスポート ファイルをダウンロードします。
<b>Step 3</b>	新しいクラスタへのCSVエクスポートファイルのアップロード (13 ページ)	CSV ファイルを移行先クラスタ (クラスタ2) にアップロードします。
<b>Step 4</b>	ユーザテンプレートの設定 (14 ページ)	移行先クラスタで、ユーザ設定を使用して、ユーザテンプレートを設定します。
<b>Step 5</b>	新しいクラスタへのユーザの移行 (14 ページ)	CSV ファイルからユーザをインポートするには、一括管理の [ユーザの挿入] メニューを使用します。
<b>Step 6</b>	一括管理によるユーザー移行の確認 (15 ページ)	一括管理によるユーザの移行を確認します。

## CSV ファイルへのユーザ エクスポート

移行元のクラスタで、一括管理ツールを使用して、移行するユーザを CSV ファイルにエクスポートします。

注意: ジョブの実行後は、ジョブスケジューラに移動して、ジョブのステータスを確認し、ファイルが作成されたことを確認することができます。[後で実行する] を選択した場合、ジョブスケジューラを使用してジョブの実行時間を設定することができます。

#### 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザのエクスポート (Export Users)] の順に選択します。
  - Step 2** フィルタ ツールを使用して、移行するユーザを検索して選択し、検索をクリックします。
  - Step 3** [次へ (Next)] をクリックします。
  - Step 4** ファイルのファイル名を入力します。  
このツールは、ファイルの末尾に .txt 拡張子を追加します。たとえば、<csvfilename>.txt となります。
  - Step 5** ファイル形式のドロップダウンから、エクスポートファイルの形式を選択します。

**Step 6** ジョブをすぐに実行する場合、**今すぐ実行** をクリックして、**送信** をクリックします。

---

#### 次のタスク

ジョブの実行後は、**ジョブスケジューラ**に移動して、ジョブのステータスを確認し、ファイルが作成されたことを確認することができます。**後で実行する**を選択した場合、ジョブスケジューラを使用してジョブの実行時間を設定することができます。

ファイルが作成されたことを確認したら、[CSV エクスポート ファイルのダウンロード \(13 ページ\)](#)。

## CSV エクスポート ファイルのダウンロード

エクスポート ファイルが作成されたことを確認した後、ファイルをダウンロードします。

#### 手順

---

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、**[一括管理 (Bulk Administration)]** > **[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)]** を選択します。
  - Step 2** **[検索 (Find)]** をクリックします。
  - Step 3** 作成されたファイルを選択して、**選択したファイルをダウンロードする** をクリックします。
  - Step 4** ファイルをダウンロードします。
- 

#### 次のタスク

[新しいクラスタへのCSV エクスポート ファイルのアップロード \(13 ページ\)](#)

## 新しいクラスタへのCSV エクスポート ファイルのアップロード

移動先クラスタ (クラスタ 2) で、クラスタ 1 からエクスポートした CSV ファイルをアップロードします。

#### 手順

---

- Step 1** Cisco Unified CM Administration から、**[一括管理 (Bulk Administration)]** > **[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)]** を選択します。
- Step 2** **[新規追加 (Add New)]** をクリックします。
- Step 3** **[Choose File]** をクリックします。別のシステムからエクスポートファイルを参照して選択します。
- Step 4** 対象 ドロップダウンから、ファイル内容をインポートするために使用する一括管理メニューを選択します。たとえば、**ユーザ**あるいは**電話機**、**およびユーザ**を選択します。

- Step 5** トランザクションタイプドロップダウンから、ファイルの内容をインポートするために使用するサブメニューを選択します。たとえば、**ユーザの挿入** または **電話/ユーザの挿入** を行います。
- Step 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

次のタスク

[ユーザテンプレートの設定 \(14 ページ\)](#)

## ユーザテンプレートの設定

移動先クラスターで、インポートしたユーザに適用する設定で、ユーザテンプレートを設定します。

手順

---

- Step 1** Cisco Unified CM 管理から、**一括管理 > ユーザ > ユーザのエクスポート** を選択します。
- Step 2** 次のいずれかを実行します。
- **検索** をクリックして、既存のテンプレートを選択します。
  - **[新規追加 (Add New)]** をクリックして新しいテンプレートを作成します。
- Step 3** インポートされたユーザに適用するユーザ設定を構成します。たとえば、以下のフィールドがオンになっていることを確認します。
- **[ホームクラスター (Home Cluster)]**
  - **[Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]**
- Step 4** Microsoft Outlook を使用してカレンダーを統合するためにユーザを有効にする場合は、**プレゼンスに会議情報を含める** チェックボックスをオンにします。
- Step 5** 残りのフィールドを設定します。
- Step 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

次のタスク

[新しいクラスターへのユーザの移行 \(14 ページ\)](#)

## 新しいクラスターへのユーザの移行

一括管理の **[ユーザの挿入]** メニューを使用して、エクスポートしたユーザを新しいクラスターにインポートします。

## 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM 管理から、一括管理 > ユーザ > ユーザのインポートを選択します。
  - Step 2** ファイル名から、他のシステムからエクスポートされたファイルを選択します。
  - Step 3** ユーザテンプレート名から、先ほど作成したユーザテンプレートを選択します。
  - Step 4** ユーザのエクスポートで作成されたファイルで作成されたファイルを確認します。
  - Step 5** 今すぐ実行をクリックして、送信をクリックします。
- 

## 次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

## 一括管理によるユーザー移行の確認

一括管理を使用してユーザを移行した後、ソースクラスタと宛先クラスタで Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始した後、送信元と宛先のクラスタとは別のクラスタが、ユーザの移動によって通知を受信したことを確認する必要があります。発生しました。

他のすべてのクラスタが宛先クラスタとの同期を完了するまでに最大30分かかることがあります。待機している間は、変更 (送信元または宛先) の一部ではない並行してサンプル (5) IMP パブリッシュャへのターミナルセッションを開いて、CiscoSyslog をモニタすることができます。

## 手順

- 
- Step 1** 次のコマンドを実行して、一括管理によるユーザの移行後にサンプル IMP パブリッシュャノードがすでに同期を完了しているかどうかを確認し、送信元および宛先クラスタで Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始します。この時点でタイムスタンプに通知します。次の構文の例では、宛先クラスタ名は dst 名です。これを宛先クラスタ名に置き換えます。

```
admin:file search activelog syslog/CiscoSyslog ".*InterClusterSyncAgentStatus:.*dst-name.*"
```

- Step 2** ICSA ステータスのタイムスタンプが記録されたタイムスタンプよりも新しいものではない場合は、同期が正常に完了するまで、最大で30分間次のコマンドを使用します。

```
admin:file tail activelog syslog/CiscoSyslog regexp
"*.InterClusterSyncAgentStatus:.*dst-name.*"
```

選択したサンプルクラスタ/ノードで ICSA failed sync status アラームが表示された場合は、同期ステータスアラームが正常に完了するまで5-10分待ちます。ICSA は5分ごとに再試行されます。同期が正常に完了していないか、同期が一貫していない場合は、TAC ケースをオープンしてください。

この時点で、5つのリモートサンプルクラスタを確認しました。これは、一括管理によるユーザの移行後、および送信元クラスタと宛先クラスタで Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始した

後に、現在の時刻がタイムスタンプよりも30分後に記録された場合です。これで、次の移動プロセスに進むことができます。その他の移動がない場合は、終了します。

## ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート

ユーザを新しいクラスタに移行したら、連絡先リストをインポートして、移行したユーザの連絡先データを復元します。

### 手順

- Step 1** 前にエクスポートされた連絡先リストの CSV ファイルをアップロードします。
- Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、一括管理 > ファイルのアップロード/ダウンロードを選択します。
  - [新規追加] をクリックします。
  - 連絡先リストの CSV ファイルを選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。
  - ターゲットとして [連絡先リスト (Contact Lists)] を選択します。
  - トランザクションタイプとして [ユーザの連絡先のインポート - カスタム ファイル (Import Users' Contacts - Custom File)] を選択します。
  - 必要に応じて [ファイルが存在する場合は上書きする (Overwrite File if it exists)] をオンにします。
  - [Save (保存)] を選択してファイルをアップロードします。
  - [Save (保存)] を選択してファイルをアップロードします。
- Step 2** 連絡先リスト ジョブのインポートを実行します。
- Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、一括管理 > 連絡先リスト > 更新を選択します。
  - ステップ 1 でアップロードした CSV ファイルを選択します。
  - 任意でジョブの説明を更新します。
  - ジョブを今すぐ実行するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。後で更新をスケジュールするには、[後で実行 (Run Later)] を選択します。
  - [送信 (Submit)] をクリックします。
- Step 3** 連絡先リストのインポート ステータス監視
- Cisco Unified CM IM and Presence** 管理で、一括管理 > 連絡先リスト > ジョブスケジューラを選択します。
  - [検索 (Find)] をクリックして、すべての BAT ジョブをリストします。
  - ステータスが完了と報告されたら、連絡先リストのインポート ジョブのジョブ ID を選択します。
  - 連絡先リストファイルの内容を表示するには、[CSV ファイル名 (CSV File Name)] にリストされているファイルを選択します。
  - [ログ ファイル名 (Log File Name)] リンクをクリックし、ログを開きます。



ジョブの開始時刻と終了時刻が表示され、結果の要約も表示されます。

## 元のクラスタでのユーザの更新

新しいクラスタですべてが正常に動作していることを確認するまで、古いクラスタからユーザーを削除しないでおくこともできます。一括管理のユーザの更新機能を使用するこの手順を使用して、古いクラスタから **IM and Presence** 機能を削除します。

### 手順

- Step 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
- Step 2** フィルタ ツールを使用して、移行ユーザを検索します。たとえば、以下条件を満たすユーザのすべてを検索することができます。 **IM and Presence** が有効になっているか。
- Step 3** [Next] をクリックします。
- Step 4** 以下の 2 つのフィールドのそれぞれについて、一番左のチェック ボックスをオンにして、隣の右側のチェック ボックスはオフのままにします。左側のボックスは、フィールドを更新することを示し、右側のボックスには新しい設定 (オフ) が示されています。
- [ホームクラスタ (Home Cluster)]
  - [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]
- Step 5** ジョブ情報の下の今すぐ実行 (Run Immediately) を選択します。
- Step 6** [Submit] をクリックします。

### 次のタスク

移行が正常に実行されたこと、すべてのユーザが新しいクラスタで適切に設定されていることの確認ができれば、元のクラスタ内の移行したユーザを削除することができます。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。